

| | |
|------------------|---|
| Title | 多様な関係性の構築による事業ユニットの競争優位の確立 - 顧客及び他ユニットからの経営資源獲得に着目して - |
| Sub Title | |
| Author | 金子, 哲男(Kaneko, Tetsuo) 余田, 拓郎 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 2004 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 2004年度経営学 第1942号 連絡が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1942 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

| | | | | | |
|---|-------|------|----------|----|------|
| 所属ゼミ | 余田研究室 | 学籍番号 | 80328253 | 氏名 | 金子哲男 |
| (論文題名) | | | | | |
| 多様な関係性の構築による事業ユニットの競争優位の確立 —顧客及び他ユニットからの経営資源獲得に着目して— | | | | | |
| (内容の要旨) | | | | | |
| <p>近年、企業は「選択と集中」を合言葉に戦略や組織の再構築を行ってきた。そこでは効率の追求が重視され、多くの企業が専門企業を目指しているかのように見える。しかし、企業発展の源泉となる無形の経営資源について考えるとき、企業を取り巻く多様な環境を活用しようとしている企業も少なからず見られる。そこには、長期的な競争優位の源泉があるのではないだろうか。</p> <p>本研究では、企業内の事業部やカンパニーなどといった「事業ユニット」を焦点組織とし、その事業ユニットを取り巻く環境として、直接の関係先である顧客と、間接的な関係先である他の事業ユニットを取り上げる。そして、それらの組織との関係性が焦点組織にもたらされる情報の質に影響を与え、それが組織の成果に結びつくという仮説を立て、製造業企業に対するアンケート調査によって検証を行う。また、関係性を規定する要因についても併せて検証を行う。</p> <p>依拠する先行研究としては、顧客との関係についてはリレーションシップ・マーケティング、社内の事業ユニット間の関係については社会的ネットワーク理論であり、いずれも社会的交換理論をベースにしている。そこでは信頼概念が鍵となる。一方、情報については、階層性や粘着性という概念を利用する。また、信頼の規定因として、新たに「正当性の保有」という概念を導入する。</p> <p>検証の結果、事業ユニット間の関係の重要性が定量的に示された。具体的には、①「正当性の保有」と「コミュニケーション」が他ユニットからの信頼を醸成し、②信頼が高くなるほど情報の有効性が高くなる、その結果、事業ユニットの組織成果が高くなっているのである。</p> <p>これは、顧客だけでなく、多様な組織との関係性を構築することの重要性を示唆するものである。さらに、これはポスト「選択と集中」の時代のモデルともなり得る。「選択と集中」によって、複数の強い事業を保有した企業は、横の連携を強めることで、さらに高い業績をあげることができるという可能性を示しているからである。</p> | | | | | |